

# 百済教猷先生の思い出

神 田 壹 雄

百済先生にお目にかかった最初は昭和 10 年秋大阪で開かれた東亜天文協会(当時は協会)の席上で、次は 11 年春大阪毎日新聞社講堂で、6 月 19 日に起る皆既日食の講演を聞いた時です。なお先生の講演を聞いたのもこの時が初めです。先生と直接お話をしたのは 6 月 19 日の皆既日食見物の帰途、北海道をあちこち見物して洞爺湖の帰り、虻田駅で乗車したところ、先生が窓の外を見ておられるのに気づき、先生の前に腰かけ日食観測のこと、五味新星のことなどを聞いたり話をしたのが初めです。話をしているうち時々先生は懐中時計(大学卒業のときの恩賜の銀時計)を出しては見、出しては見されるので、函館に着くのが夜になるのでそれを気にしておられることと思っていたところ、この汽車は今時速何キロ、今通過したトンネル・鉄橋は何メートルなどといわれるので、先生は汽車や旅行がお好きですかと尋ねたところ大好きといわれ、こんどは機関車の話し、鉄道の話と話題が変わって函館までお供をさせていただきました。

当時東亜天文協会大阪支部は伊達英太郎、西森紀久雄、大口周作等若手が活躍しており、毎月例会を開いて百済先生その他の先生のお話を聞いていたので、私も 10 月から毎月出席し、百済先生とは天文以外に汽車の話をするようになりました。当時私は川崎車輛設計部に関係していたので機関車の形式図や特種機関車の全体図など、先生のお持ちになっていないものの青写真を、お宅に持参して天文と汽車の話をして一日を過すようになりました。

お伺するのは昼過ぎで、夜 11 時ころまで話をするので、お姉さんと姪さんにはいつもご迷惑をおかけしました。先生と二人で話をすると講演のときとちがって、先生はなかなか雄弁で話題も豊富で、月一回会うようでは 10 時間や 11 時間はまたたく間に過ぎてしまいました。

先生の学生のころのこと、京大大学院、天文台技師、京大助教授のころのことなど先生の若いころのことや、そのころの東大、天文台、京大の諸先生のことなどは、お姉さんからいろいろお話が出ましたが、先生はめったに話をされませんでした。

大東亜戦争も永くなり、老人が病気でない男子は出征が徴用で工場に行くようになり、大阪市立電気科学館プラネタリウム解説者も高城武夫氏 1 名となったので、私も 19 年 12 月末に勤めるようになりました。科学館と先生のお宅は近いので、お尋ねするのに便利であると喜んでいたところ、20 年 3 月 13 日夜の空襲で先生のお宅は全焼

し行方不明でした。先生は昭和 18 年 2 月 5 日の皆既日食観測に、また北海道に行かれて転倒され腰の骨を折られ、それ以後歩行が思うようにならず、空襲で大火災の中をよく避難されたかと心配していたところ、京都の旅館に避難されたことを知り、5 月に高槻の知人の離れを借りられたのを知りお尋ねしたり、布施や塚口に転居される度にお尋ねしているうち、仁川の現在地を買われてお住みになられたので、私は勤めの帰途よくお尋ねしました。そのころ先生は望遠鏡も天文書も汽車も焼いたので楽しみが無いといっておられました、そのうち世も落つき汽車模型も次々に買って楽しめるようになりました。

東亜天文学会も戦後大阪、神戸で毎月例会を開くようになり、故山本先生が講演された後時々百済先生の近況を尋ねられ、長谷川一郎君を紹介するよう、また例会にも出席してもらうよういわれましたが、ついそのままにしていたところ、山本先生が直接百済先生をお尋ねされ、それから大阪の例会に出席されるようになられました。山本先生逝去の後東亜天文学会会長になっていただきました。

私は一昨年 5 月電気科学館を定年退職したので、永年の夢であったヨットでの日本一周を始めました。昨年は 4 月 2 日姫路ヨットハーバーを出航本州一周して 11 月 26 日姫路に帰港、27 日大阪に帰り、百済先生の入院を知り驚きお尋ねしました。12 月に入るとすっかり衰弱され、先生は仁川の宅に帰りたいと申されるので 7 日午後寝台車に乗せ、姪さん看護婦私の三人付添い無事帰宅されました。姪さんと話をしていると時々先生が話をはさまれるので、まだまだ大丈夫と考え 22 時にお隣の奥さんにあとをお願いして帰宅し、8 日 9 時にお伺したところ 2 時に逝去されたあとでした。

私のような天文アマチュアの質問に先生は本当に手を取り足を取り懇切に教えて下さったこと、先生独特の几帳面な字体で数冊のノートを書いて下さったことも思い出になってしまいました。先生を知って 30 年、思い出は沢山ありますが、今は星好きであり、汽車好きであった先生の御冥福を祈る次第であります。

## 天文学会春季年会のおしらせ

今年の日本天文学会春季年会は、期日は 5 月 7 日(金)、8 日(土)、9 日(日)と決定しました。会場は、東京大学理学部 2 号館の予定です。